



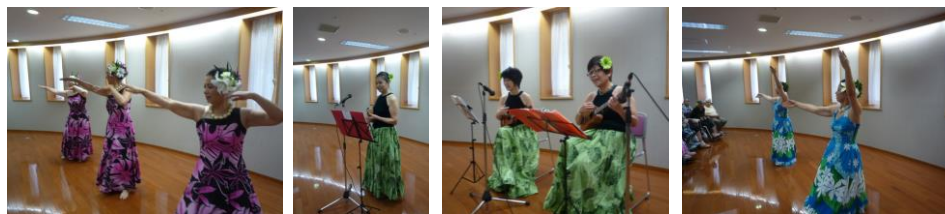
平成 25 年 10 月 1 日号

社会福祉法人 緑峯会 特別養護老人ホーム セントポーリア愛の郷



9月8日(日)、セントポーリア愛の郷では《敬老の日会》が行われました。毎年160名を超えるご家族にお集まりいただきますが、この日は、ご入居者・ご利用者のご健康とご長寿を願い、赤飯に和風ステーキと天ぷらを添えてお出ししました。お肉が大好き！と言われるご入居者も多く、喜んで頂けたようです。ところで、当施設では今年満100歳を迎えられる方が3名おられますが、満100歳と言えば、大正2(1913)年のお生まれになります。その頃の総理大臣といえば、長州閥の桂<sup>かつらたろう</sup>太郎や薩摩閥の山本<sup>やまもと</sup>権兵衛、そして翌年には第一次世界大戦が始まりますが、時の総理は佐賀閥の大隈<sup>おおくま</sup>重信で、日本史の教科書でしか顔を見たことがない藩閥政治家と同時代を過ごされたと考えると、憧憬に近い感情を持ちます。ちなみに西宮市だけでも今年満100歳を迎えられる方は93人もおられるそうです。

この日、地域交流室から腹の底に響く太鼓の音が廊下にもれていました。公演いただいたのは“八多太鼓”の名手中川俊彦さんと芦田和美さんと、太鼓の合間に入る絶妙トークに会場は大いに盛り上がりました。尚、“ハタ”の語源については、古代、渡来人<sup>わた</sup>秦氏の勢力圏であったとか、摂津国の端っこに位置していたからだとか、はっきりとはしておりません。また、8月26日(月)には、「ワイオリ」と「エ・ママ・ウクレレ」の皆様によるハワイアン公演がありました。本格的なフラダンスに会場からは大きな拍手がわき起こり、去りゆく夏を皆で惜しみました。



## 敬老



〜〜社会のために貢献できる喜び〜〜

東日本大震災を経験し、死と直面した若者たちは、「将来は社会のために役立ちたい。自分が必要とされ、社会に役立つ人間となる使命感こそが生きる力になる。」と言います。逆境を経験した人間が生きる機会を与えられた時に社会貢献への強い使命感が生まれるようです。

私達のように高齢者介護の世界に携わっている人間は幸せなことに社会貢献ができる環境に立たせて頂いております。ご入居者・ご利用者のセントポーリア愛の郷での生活が楽しく充実したものとなるように、職員全員が使命感を持って介護にあたります。

【理事長 北嶋勇志】  
9月8日(日) 敬老の日会

<いざという時のために>

高齢者は錠剤の包装物に注意！

食物以外の物を飲み込んでしまう事を「誤飲（ごいん）」と言い、食物や胃の内容物が気道に誤って入ってしまう「誤嚥（ごえん）」と区別されます。

家庭内の誤飲事故は5歳以下の小児に多いのですが、加えて最近、高齢者の誤飲が増加傾向にあります。



3歳以下の乳幼児は何にでも興味があり、固形物はすべて口に運び、誤飲を起こす危険性が常にある事を保護者が認識しておくことが重要です。

高齢者では、日常生活や介護に関連した入れ歯洗浄剤、せっけん、消臭剤など、身の回りのものによる事故が目立ってきています。特に錠剤を入れているPTP包装（薬をアルミなどの薄い金属とプラスチックで1錠ずつ個装したものを）を誤飲してしまうケースが危険です。食道や胃に傷をつける事態があります。



硬貨の誤飲は胃内やそれ以降の消化管内では、多くの場合2〜3日放置すると自然排泄されます。

要注意なのは、ステンレス鋼合金で作られたロボット玩具で、その手足や車の突起物が粘膜に引っ掛かって食道に数日以上停滞する場合があります。食道穿孔などを起こす危険性があり、この場合は早く飲み込んだ物を除去しなくてはなりません。

ボタン電池は食道や胃内に数日間停滞すると、アルカリ液が流出して消化管に穿孔を起こす危険性があります。またリチウム電池では、消化管接触部に電流が流れて潰瘍を起こす危険性があります。



誤飲するもので多いのは化粧品、たばこ、乾燥剤で全体の半数を占めています。特にたばこの誤飲は心配になりますが、胃洗滌するまではないと思います。胃液内ではニコチンは溶出しにくいことと、周りが考える程は食べていないことが多いためです。その場合は注意深く観察し、嘔吐に気を付けてください。



子供の誤飲予防の原則は、手の届くところに興味を持ちやすいものを置かないようにしましょう。

つい食べ過ぎてしまったり、つい遅くなる時の晩ご飯に注意

管理栄養士 前田佐江子

夜遅く食べると太りやすく、生活習慣病の原因になる理由

1.活動量が少なく消費エネルギーが低い

夜は活動量が少ないため、食事からとったエネルギーが消費されにくいのが特徴です。そのため余分なエネルギーは体脂肪として蓄積されやすくなります。

2.食事誘導性熱産生(DIT)が低い

DITとは、食事をしたときに胃や腸で消化・吸収される際に消費されるエネルギーのことです。DITは朝が最も高く、夕方から減り、夜にもっとも低くなります。

朝と同じものを食べても夜はDITによる消費エネルギーが少ないぶん、太りやすいと考えられます。

3.たんぱく質 BMAL-1 が脂肪をため込む

たんぱく質 BMAL-1とは体内時計を調整する遺伝子群のひとつで、脂肪を貯蔵させる司令塔の役割があります。体内の BMAL-1 は午後10時から午前2時頃がもっとも多くなるため、この時間帯の食事は太りやすくなります。

Point

夜遅めの夕食のポイント

1. 低エネルギー・低脂肪の食材を選ぶ

主菜は低脂肪で良質たんぱく質源になる白身魚や豆腐などがおすすめです。

脂肪の多い食材は胃もたれの原因になるので控えましょう。

2. 消化しやすいように油少なめの調理にする。

茹でたり蒸したり、油を使わない調理法にしましょう。油脂は高エネルギーのほか消化に時間がかかり安眠を妨げます。

3. よくかんで20分以上かけて食べる。

消化に負担がかからないようによくかんで食べます。20分以上かけて食べると脳の満腹中枢が刺激され食べ過ぎを防げます。



夕食は1日の疲れを癒したり、家族や仲間との会話を楽しんだりするひとときです。秋の夜長についつい夜更かしをしてしまいますが、眠る前の食べ過ぎにはリスクを伴うので充分注意しましょう。

8月・9月にご協力いただいたボランティアの皆様ご協力ありがとうございました。

(敬称は省略させていただきます)

- 折り紙 : 廣瀬公子
- 絵手紙 : 中川孝一
- ピアノ : 重松久代
- 書道 : 溝口佳子
- お誕生日会 : 北嶋庸子
- なかよしグループ : 西村敦子、藤吉フジコ  
平原多加子、竹下夏子、平本弘美  
常見好子、仲村枝、金原隆幸
- お楽しみ会 : 中南正、中南ヒロ子、北原節子  
武田紘子、陰山君代
- フラダンス&ウクレレ : 増田典子、末原章子、野田洋子
- [イイ&エ・ママ・ウクレレ] : 中井紀子、島崎康子
- 河内音頭 : 中川俊彦、芦田和美



お楽しみ会 8月16日(金)

アンコールは“川の流れるように”



十月の行事

※予定は変更になる場合があります。

武田紘子さんは素敵なステージ衣装をお召しになられ、「川の流れるように」を熱唱頂きました。

2013 音楽療法学会 全国学術大会 in 鳥取 9月6日(金)~8日(日)

音楽療法士 中原 大輔



今回は先日鳥取県で行われた音楽療法学会全国学術大会の様をお伝えいたします。山陰での開催は初めて。場所は米子市のコンベンションセンター文化ホールで、様々な講演や研究発表を聴講しました。今回の大会テーマは「音楽療法の役割を再考する～個のつながりや地域とのつながりを通して」というもので、特に医学界や行政の立場から、社会福祉における音楽療法の役割に力点が置かれておりました。講演された医師の中には講義の最後に涙ながらに自分の思いを語られた方もおられました。圧巻だったのは今年で102歳を迎えられる聖路加国際病院の理事長であり、本学会の理事長もされている日野原重明先生が講演時間一時間半立ちっぱなしで熱弁されたことです。毎年日野原先生に全国の音楽療法士が元気や勇気をもらえるのも本学会の醍醐味となっています。また「ふるさと」「春が来た」「おぼろ月夜」の作曲者である鳥取県出身の岡野貞一さんを記念したコンサートもあり、交流会では音楽療法士が親睦を深めました。

今回の学術大会は私たちにとって忘れられない大会になりました。ポスター形式で事例発表をすることができたからです。ボードに研究内容をまとめたポスターを貼って、その前に立ち、閲覧する聴講者と質疑応答を交わす発表スタイルです。一時間の持ち時間が与えられ、緊張の面持ちでポスター前に立ちました。不安で一杯でしたが、多くの参加者に閲覧・質問して頂き、終わってみると、「もっと工夫できたな」と反省するところもありましたが、それでも、我々の発表を聴講くださった方々からは、「今度是非セントポーリアまで観に行かせてください」とのお言葉も頂きました。一番驚かれたのは、一つの特養に複数の音楽療法士が配置され、来年4月にはまた新たに3名もの音楽療法士が採用されるという点でした。ここまで音楽療法に力を入れている特養は全国的にも珍しいようです。



## 『波濤の果て』【7】

独国の背信行為で日独伊三国軍事同盟が一度流産した時、天皇は、「これで陸軍が目覚めることとなればかえって幸せだろう」と漏らされたと言う。対英米協調こそが日本外交の基本と常時考えておられた天皇の偽らざる心境であった。天皇は同時に同盟に反対した米内光政海相を高く評価した。米内は後の及川古志郎とは違い、「日本は対米英戦に勝てないし、そもそもそういう設計になっていない」と公言して憚らなかった。

米内海相のもと、海軍軍務局長を務めた井上成美は帝国海軍史上に誕生した海軍大将を評して、「一等大将もいれば三等大将もいた」と述べた。井上曰く、「二等大将」とは、「力量不足なのに大将になった人物のことで、識見も何もない人物のことで」と。《三等大将》とは具体的には永野修身、及川古志郎、嶋田繁太郎あたりを指していると思われる。いづれも、日米開戦を巡って、「海軍は対米戦に勝算なし」と明言しなかった提督たちで、逆に彼が《一等大将》と考えていたのは、加藤友三郎や米内光政といった「日本は絶対に米英と戦ってはならない」との信念を持って行動した提督たちであった。

井上は日本海々戦の英雄東郷平八郎や真珠湾攻撃を実行した山本五十六も《一等大将》とは考えていなかったようだ。東郷については後述するが、山本については、開戦の恐怖にかられた近衛文麿首相から、対米戦になった場合の戦局の推移を問われた際、「是非私にやれと言われれば、一年か一年半の間は存分に暴れて御覧に入れます。しかし、その先のごとは全く保証できません」と回答したことがどうも気に入らなかつた。もちろん山本も米内に劣らず対米英戦反対論者であったが、当時連合艦隊司令長官という実戦部隊長としての立場が山本に思わぬ武人としての意気込みを吐露させたのだらうか。しかし、辛口でならず井上は戦後、「山本長

官はあの時、近衛首相に、『対米戦には勝算なし』とだけ言うべきであった」と断じている。確かに日本海軍は米英相手に勝てる設計になってはいなかった。

第一次世界大戦後の列国共通の財政難の中、米国は建艦制限を提案した。一九二一（大正十）年ワシントン会議で調印された海軍軍縮条約では主力艦（戦艦）の各国保有率が、米5・英5・日本3と、対米英六割となった。全権の一人加藤友三郎海相は会議に先立ち、軍令部から主力艦の対米七割絶対保有との要求を受けていたが、最終的には米国提案の対米英六割を快諾した。加藤海相は、「仮に七割にこだわり条約が成立せず、無制限の建艦競争時代となれば、日米の国力の差から、将来その保有比率は対米六割どころではなくなる。よってこの条約は実は日本に有利である」との見解を示した。

それにしても蓋し卓見である。加藤海相は会議に随員として参加していた堀悌吉中佐に、海軍次官宛伝言として次のように筆録させている。

「国防は軍人の専有物にあらず。戦争もまた軍人にてなし得べきものにあらず。（中略）仮に軍備は米国に拮抗するの力ありと仮定するも、日露戦争のごとき少額の金で戦争はできず。しからばその金ほどよりこれを得べしやと言うに、米国以外に日本の外債に依り得る国は見当たらず。しかしてその米国が敵であるとすれば、この途は塞がるが故に（中略）結論として日米戦争は不可能ということになる。国防は国力に相応する武力を備うると同時に、国力を涵養し、一方外交手段により戦争を避けることが目下の国防の本義なりと信ず」

大正十年における加藤の識見はそのまま大東亜戦争前の海軍がぶれずに保持すべきものであった。加藤の考えはその後海軍部内では《条約派》と呼ばれる人々に継がれたが、一方で加藤の考えを屈辱とし、あくまで自主海軍の建設を標榜する《艦隊派

》と呼ばれる人々も産み出し対立した。

艦隊派と条約派が誕生したのは、一九三〇（昭和五）年のロンドン会議海軍軍縮条約調印を契機としてのことであった。先のワシントン会議で煮え湯を吞まされたとする後の艦隊派の母胎となった軍令部は、全権団に対し、大型（重）巡洋艦の対米七割、潜水艦現有七万八千屯の保有を要求したが、結局又も下回る線で調印となった。軍令部がこだわった対米戦の想定戦闘は、出撃してくる米艦隊を南太平洋に潜ませた潜水艦の雷撃で特に敵艦を漸減しつつ、連合艦隊主力は日本近海で迎撃し、艦砲戦で決着を付けるという日本海々戦の再現を夢想するものだった。よって軍令部は潜水艦と劣勢の戦艦数を補う大型巡洋艦の保有に固執した。

憤激した艦隊派は、当時まだ存命していた“神様”東郷平八郎を担ぎ出して、条約派に揺さぶりをかけた。老齢の東郷は既に海軍の職制から離れていたが、現役の元帥であり、不世出の英雄の威厳は強力であった。井上が東郷を一等大将と考えなかつたのは、晩年の東郷が艦隊派に担がれ、晩節を汚したと見たからだ。井上は言う、「人間を神様にしてはいけません。神様は批判できませんからね」

艦隊派の攻勢は続き、伏見宮軍令部総長の圧力に屈した大角岑生海相のいわゆる、《大角人事》によつて将来を嘱望されていた多くの条約派提督が予備役に編入（クビに）された。その中には、山本五十六の盟友で、井上が最も尊敬する海軍軍人の一人に挙げた堀悌吉中將も含まれていた。（続く）

※上段の隠れ写真は真珠湾攻撃にむかう日本の機動部隊



とうごうへいはちろう 東郷平八郎



かとうともさぶろう 加藤友三郎

~~~~“昭和青春譜”の衣替え~~~~

当初、二・二六事件を描こうと考え、『王城の叛逆者』と題してました昭和青春譜シリーズですが、行きがかり上、大東亜戦争開戦への道標を描こうと思い直し、『郷だより』第73号から『波濤の果て』の連載と改めさせていただきます。『王城の叛逆者』は別稿として後日より改めて連載し直しますので何卒ご容赦くださるようお願いいたします。



苦情相談窓口の注意事項

苦情相談は苦情受付担当者を窓口として苦情相談受付ボックスに付けておられます。ユニットの介護・看護職員でなく、苦情受付担当者にお申し出下さいますようお願い申し上げます。ご協力の程よろしくお願い致します。